

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2026.09.No349

9月号

目次

北海道は災害が起きない?.....1
まちづくり委員会報告.....2
特集 北海道建築士会 会員作品紹介 2026.....5
西から東から「千歳のまち」6
Coffee Break.....7
information.....8

URL <https://www.h-ab.com/>

北海道は災害が起きない?



災害対応委員会 副委員長 瀬尾 正 宣 (後志支部)

◎9月1日は『防災の日』

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災の教訓と、台風シーズンを迎える時期であることから制定されました。今日は、我々を取り巻く身近な災害について改めて考えてみましょう。

～北海道の災害リスクについての検証～

タイトルの「北海道は災害が起きない?」についてですが、「北海道は地震や台風が少なく、災害が起きにくい」という印象をお持ちの方が多くないでしょうか?

しかし、実際に災害が起きた場合はどうでしょうか。道内の地域を結ぶ主要道路は山間部や海岸線を通ることも多く、土砂崩れや津波によって寸断されれば、支援物資が届かなくなる恐れがあります。また、冬に降雪が重なれば、重大な二次災害を引き起こす危険性も高まります。

記憶に新しい大地震と、迫り来る津波の脅威

2018年の北海道胆振東部地震では最大震度7を観測し大規模な山崩れや液状化が発生しました。道内全域がブラックアウトに陥ったことは、皆様の記憶にも新しいことと思います。

1993年の北海道南西沖地震では奥尻島を中心に大津波が襲い、火災も発生して甚大な被害が出ました。

さらに現在、太平洋側の千島海溝・日本海溝沿いでは、マグニチュード9クラスの超巨大地震が近い将来発生すると予測されています。沿岸部には最大20メートルを超える巨大津波が押し寄せるおそれがあると警鐘が鳴らされています。

身近に潜む活火山のリスク

道内には多くの温泉が存在しますが、その多くは火山活動によって作られたものです。十勝岳・雌阿寒岳・樽前山・駒ヶ岳・有珠山など、道内には31もの活火山があります。

中でも有珠山は30年ほどの周期で噴火を繰り返しています。前回の噴火からすでに26年が経過しており、今後の動向に警戒が必要です。

最も恐ろしい「冬」の複合災害

北海道において最も恐ろしいのは、厳冬期に大地震等が起きライフラインが絶たれてしまうことではないでしょうか。

- 凍死の危機：停電やガスの停止により暖房が使えなくなると、わずか数時間で命の危機にさらされてしまいます。
- 建物の倒壊：木造家屋においては、地震力に積雪荷重が加わることで、建物の倒壊リスクがさらに増加します。

以上のことから、北海道の災害リスクは非常に高いと言えるでしょう。

おわりに

「北海道は災害が起きない」という思い込みは、いざという時の避難行動や、日頃の防災対策を遅らせる最大の敵です。

寒冷地かつ広大という地域特性ゆえの深刻なリスクに備え、我々自身が防寒対策を含めた独自の防災備蓄や避難計画を立てておくことが最も重要なアクションなのではないでしょうか。

☆災害対応委員会からのお知らせ

災害対応委員会では「震災建築物応急危険度判定士」の認定講習・机上訓練を実施しております。Webでも受講可能になりましたので、ぜひご活用ください。

また、全道大会さっぽろ大会でブースを設置しております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

北海道建築士会まちづくり会議 & まちづくりフォーラム in 滝川

まちづくり委員会 委員長 永 井 雅 規 (札幌支部)



【北海道建築士会まちづくり会議】

2026年4月11日(土)、かでの2.7においてオンラインのハイブリッド形式にて「北海道建築士会まちづくり会議」が開催されました。本会議は、北海道建築士会まちづくり委員会が主催し、年に1回、各まちづくり部会員、活動関係者(本部の各委員等)及び各支部まちづくり関係者が一堂に集まり、活動報告や講師を招いて講演を行うなど、情報を共有する場となることを目的に開催しています。

今回は「空き家の活用とまちづくり」をテーマとして、建築士会会員のみならず学生や一般参加者も交えて実践的なアイデアを創出する場として実施しました。私から本会議で得られた熱気と深い学びを共有させていただきます。

第一部では、まず清水副委員長より、東日本大震災から15年の節目として宮城県(女川町・石巻市)で開催された全国まちづくり会議および復興住宅の現状視察に関する報告がありました。続いて私から、まちづくりフォーラムや景観まちづくり塾などの活動報告を経たのち、長野県建築士会常務理事の井出正臣氏による基調講演「地域の力で動き出す空き家の活用とまちづくりと建築士の役割」が行われました。



井出正臣氏による講演

井出氏の実践事例として、佐久穂町での歴史的建造物を民泊「彌八郎」として再生した古典型まちづくりプロジェクトや、元料亭を新規就農者や教員向けのシェアハウス(定員6名、家賃35,000円)にするなどのストック活用型サイドプロジェクトが紹介されました。特に印象深かったのは、都市政策が従来の「人口増加・フロー重視のトップダウン型(工学的アーバンイズム)」から、「人口減少・ストック重視のボトムアップ型(人文的ルーラリズム)」へと転換しているという指摘です。設計・施工という受動的な業務だけでなく、戦略的地域変革への能動

的な参加がこれからの建築士には求められています。地方の不動産を「継承所有財産」として丁寧に扱い、空き家という安い物件を活かす「調教師」としての能力が必要だという言葉には強く共感しました。バズることを狙うのではなく、持続可能な成長を重視する姿勢も、私たちが日々の業務で忘れがちな重要な視点です。また、道内7つの大学からなる建築・土木学生のコミュニティ任意団体「TONKAN札幌」の発表も特筆すべきものでした。インフラ老朽化が懸念される2040年問題を見据え、物件探しから設計・施工・運営までを学生自ら行うという頼もしい活動であり、2030年までに全国50拠点を展開するという熱意には、業界の未来に対する大きな希望を感じました。

第二部のグループワークでは、「滝川の寄宿舍を生かせ」と題し、滝川市内の工業地域にある元独身寮を対象に、プレストカードを用いたアイデア出しを行いました。



プレストカードで溢れ出るアイデア

各グループからは非常にユニークで自由な提案が飛び交いました。婚活イベントや日替わり食堂を行うAグループ(謎の箱)、夜間の工業地域をYouTuberやアーティストの創作拠点とするBグループ、DIY主体でスポーツアクティビティ参加者の宿泊施設を目指すCグループ、託児所や高齢者の居場所、子ども食堂などを組み合わせて四世代交流を図るDグループ(キャットウォーク)、防音睡眠体験室や屋外ビーチ、ジンギスカンを提供する究極の癒し空間を構想したEグループなど、発想の豊かさに驚かされました。しかし、会議を通して最も痛感したのは、アイデアの「発散」から「収束」へと向かう際のリアリティの重要性です。「シェアオフィス、カフェ、クラウドファンディング」といった安易な発想(NGワード)に逃げず、「自分のお金10万円を出せるか?」

という真剣度こそが実現への鍵を握るという指摘は、まちづくりの本質を突いていました。仮説・検証・実践のサイクルを回す探求型思考の必要性を強く学びました。

「現地を見ないと本当の解決策は見えない」という井出氏の言葉通り、まちづくりは現場に足を運ぶことから始まります。そこでここから実践編として、滝川市での「まちづくりフォーラム」に続いていくことになるのです。私たち建築士が図面を描く枠を超え、人と地域を繋ぐ「まちづくりのプレイヤー」としてどう動くべきか。その大きなヒントを得られた、非常に充実した会議でした。

【北海道建築士会まちづくりフォーラム in 滝川】

4月の北海道建築士会まちづくり会議の成果を活かして2026年6月13日(土)、滝川市のスキルアップセンター空知にて「北海道建築士会まちづくりフォーラム in 滝川」を開催しました。このフォーラムでは、引き続き「空き家の活用」をメインテーマに滝川市のことを知り、課題を共有したうえで、滝川市幸町の工業地域に現存する「旧寄宿舎」をリアルな対象として、具体的な利活用モデルを議論しました。TONKAN札幌にも参加いただき「空き家はどう活かす?」「学生が関われる余地は?」「地域と一緒にできることは?」そんな問いにみんなで向き合う1日となりました。開会挨拶では 滝川市長 前田 康吉 様より、市長が思い描く滝川市の姿を含めご挨拶頂きました。

前半はインプットタイムとして、滝川市の総務部企画課長 高嶋 秀治 氏より、まちの特徴から市が取り組んでいる空き家対策や、関連する支援制度等で情報提供を行っていただきました。滝川市は人口約3万5千人で、農業・建設業・商業が中心の地域であり、菜の花畑やグライダー、ジンギスカン発祥の地といった魅力的な地域資源を有しています。一方で、市は令和8年度までの空き家対策計画を実施し、緊急度の高い空き家への対応や、エベッツ市民大学大人カレッジによる市民主体のまちづくり活動などを進めており、私たち建築士が地域課題にどう関わるべきか、改めて背筋が伸びる思いでした。

また、旧寄宿舎(旧若葉荘：滝川市幸町3丁目3-27)を題材にフィールドワークとして、単なる見学にとどまらず、参加者が建物の構造や用途のイメージを共有できる「体験型ワークショップ」として実施し、現地でのアイデア出しを促進するため、調査票をもとに建築士と学生がグループを構成して間取りや劣化具合などを確認、敷地周辺の環境を歩き回りリアルに体感しながら活用イメージを膨らませました。

後半は、フィールドワークを経て、5つのグループ(A～E)による利活用案の発表が行われました。Aグループは、1階をレンタルスペースとし、期間



旧寄宿舎を現地で詳細に調査

限定で閉店した人気店を復活させる「復活名店レストラン」を運営しつつ、2階を外国人技能労働者宿舎とする案を提案しました。Bグループは、大規模改修を行わずコストを抑えながら、外国人技能実習生や労働者向けの寄宿舎として令和9年頃の開業を目指す現実的なロードマップを提示しました。Cグループは、ペットホテルや室内ドッグランを備えた「WAN WAN HALF 若葉」を発表しました。Dグループは、高齢者シェアハウスと自衛隊員セカンドルームに「男飯食堂」を組み合わせ、高齢者の雇用創出と収益化を両立する案でした。Eグループは、滝川産米を活かしたおにぎり専門店ドライブスルーと民泊を複合させた「ナイトライフプロジェクト」を提案しました。

どの提案も非常に個性的でしたが、総評でも語られた通り、共通していたのは「既存施設を活かし改修費を抑えること」「地域課題の解決につながること」「継続的な収益確保」「地域住民との交流創出」という、実践的かつ本質的な視点でした。4月の会議で出された複合機能のアイデアが、現地視察を通じてより採算性を伴う事業計画へと昇華されていく過程を目の当たりにし、「現場に足を運ぶこと」の重要性を痛感しました。



各グループから利活用案の発表

今後は各グループのロードマップを参考に、ブラッシュアップを進め、来年冬から来年春に向けた具体的な活動に繋げていきたいと思います。

今後の活動にもどうぞご期待ください。

ASAHIKAWA まち歩きツアー2026

まちづくり委員会 委員 佐々木 司 (旭川支部)



2026年6月20日、北海道建築士会旭川支部および北海道建築士事務所協会旭川支部の主催による「ASAHIKAWA まち歩きツアー2026」を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、JR旭川駅コンコースの彫刻「天秘」周辺には、建築や都市の歴史に関心を寄せる参加者16名が集まりました。午前9時30分より受付を開始し、建築士会の「のほり」を目印に集合していただきました。午前10時にツアーがスタートし、旭川駅から常盤公園まで約3kmの行程を、建築士の解説とともに巡りました。

今回のまち歩きは、観光ガイドでは触れられない都市形成の背景や建築的視点を交えながら、買物公園を中心とした旭川市の中心市街地を深く理解することを目的としたものです。参加者には、都市の変遷を実際の空間の中で体感していただきながら、建築士ならではの視点でまちを読み解く機会となりました。

最初に訪れた北彩都ガーデンでは、現在の美しいガーデン空間からは想像しにくい、かつての鉄道基地としての姿についてご紹介いたしました。広大な操車場が広がっていたこの場所は、旭川駅周辺再開発の大きな転換点となった地域です。再開発の基本構想を手掛けたのはアメリカの都市計画家ウィリアム・J・ジョンソンで、駅と市街地を一体的に捉え、歩行者中心の回遊性を高める都市デザインを提案しました。現在の北彩都ガーデンのランドスケープは高野ランドスケープが担当し、国内外で高い評価を受け、受賞歴もあることを紹介いたしました。参加者の皆様は、鉄道基地から都市公園へと生まれ変わった変化に耳を傾けながら、都市再生のプロセスを学ばれていました。

続いてJR旭川駅では、駅舎の構造的特徴について解説いたしました。駅舎は四叉柱(よんさちゅう)と呼ばれる特殊な柱構造を採用し、広いコンコース空間を軽やかに支える設計となっています。また、駅前広場から買物公園へと続く都市軸線が連続するよう計画されており、駅舎のエキスパンションジョイントの位置もその軸線に合わせて調整されています。都市の骨格を形づくる軸線計画の重要性を、実際の空間を歩きながら体感していただきました。

買物公園では、昔の写真をお見せしながら現在との比較を行いました。1972年に日本初の恒久的歩行者専用道路として整備された買物公園は、当時の賑わいを象徴する商店街の姿が写真に残されています。参加者の皆様は、時代とともに変化する店舗構成や建物の更新状況を確認しながら、歩行者空間の

価値や課題について意見を交わされていました。

さらに、買物公園沿いに建つ緑橋ビルを訪問いたしました。同ビルは旭川で現存する建物の中で最も古いRC造と言われており、今回は特別に住居部分を公開いたしました。街中居住のリアルな空間を体験していただくことで、中心市街地での暮らしの可能性や、既存建物の活用による都市の持続性について理解を深めていただく機会となりました。

旭川市役所では最上階の展望台に上り、市街地を一望いたしました。ここでは、解体された旧庁舎の展示について説明し、庁舎建替えの経緯や行政施設の更新が都市景観に与える影響についてご紹介いたしました。旧庁舎から取り出した外壁のレンガや資料を通じて、公共建築の歴史的価値と現代的役割を再確認していただきました。

その後、7条緑道を歩いて常盤公園へ向かいました。緑道は市街地の中に連続する緑の回廊として機能し、都市の中に自然を取り込む旭川らしい景観要素であることを説明いたしました。常盤公園内の旭川文学資料館では、建築家・石崎繁敏について紹介いたしました。石崎は旧旭川市総合庁舎や東京文化会館に影響を受けながら、自身の建築思想を深化させ、いわゆる「旭川派」と呼ばれる独自のスタイルを確立した人物です。資料館の空間を通じて、地域の文化と建築がどのように結びついてきたかを学んでいただきました。

約3kmの行程を終え、ツアーは常盤公園にて解散いたしました。参加者の皆様からは、「建築士ならではの視点でまちの歴史が理解できた」「普段何気なく歩いている場所に新しい発見があった」などの声が寄せられました。専門家が地域の魅力を伝える取り組みとして、今後も継続的な開催が期待される内容となりました。



熱いガイドをする軽部委員

北海道建築士会 会員作品紹介 2026

本誌・HPで募集した会員作品（15回目：2作品）を紹介します。取り組みの目的として、建築士の品位保持・技術向上・業務改善を図り、社会福祉の増進および北方建築文化の発展に寄与することを目指しています。今後も皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。応募作品はホームページでもご覧いただけます。

恵み野の家

〔設計監修/施工監理〕

佐藤 英司

／ミサワホーム北海道 株式会社（札幌支部）

外観（昼）



内観（LDK）



内観（和室）



【コンセプト】

親世帯と独立した子供のいる建主世帯の4名が住む家の計画

- ・2階建2世帯同居住宅から平屋完全同居2世帯住宅を隣地に計画。プライベートを尊重した居室の配置、LDKと和室を挟んだ居室を計画。トイレと洗面・浴室は親世帯側に設定し移動しやすい配置とした。
- ・LDKと隣接する和室そして玄関ホールと空間が狭く見えないよう2面開口の和室と縦格子の壁を取り入れたデザインでモダン和風なデザインとした。
- ・外部はシンプルなデザインとしカーポートとのデザインの調和に配慮した。

【所在地】北海道恵庭市

【建築用途】住宅

【建築年】2025.09

【工事施工者】ミサワホーム北海道株式会社

株式会社 田中組 本社ビル

〔設計・施工〕

相馬 淳志

／株式会社 田中組 1級建築士事務所（札幌支部）

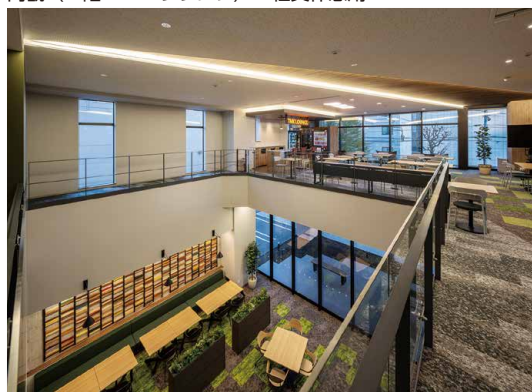
外観（夜） 際立つブレースが印象的



内観（エントランスホール） 一般利用可能



内観（2階TNKラウンジ） 社員休憩用



【コンセプト】

築55年の旧社屋の建替プロジェクト

- ・外観は白と黒を基調にした縦ラインを強調したデザイン。カーテンウォール部分はエントランス1階の柱を抜き、上部構造からコーポレートカラー色のブレースで下の階を吊る形式により、印象的なファードを創り出した。1階のホールは地域との繋がりを大切にする空間で、社員の会議のほか、ワークショップや催し、ピアノの常設によるミニコンサートが開催ができます。
- ・2FのTNKラウンジは社員の休憩や打合などの空間で、コミュニケーションが自然発生するよう居心地良い空間となるように設計しています。
- ・環境性能：ZEB Ready取得、耐震性能：重要度係数1.25
- ・防災性能：自家発電型ガスエアコン（一部範囲）

【所在地】札幌市中央区北6条西11丁目26番地

【建築用途】事務所（社屋）

【建築年】2026.04

【工事施工者】株式会社田中組



情報委員会 山川 力（千歳支部）

北海道の空の玄関口・千歳市は、いま道内で最も「地面」と「建物」が動いている街です。空港のまちで、いま何が起きているのか。建築士の目線から、千歳の「動」と「静」をご紹介します。

「2ナノ」が動かすまち

～ラピダスと建設ラッシュ～

ラピダスの千歳工場「IIM-1」では、2025年4月に試作ラインが稼働し、同年7月には2ナノメートル世代トランジスタの動作確認に成功しました。2027年の量産開始に向け、工事と設備搬入が今も続いています。



建設が進むラピダス千歳工場（IIM-1）

影響は数字に出ました。2026年の公示地価で千代田町の商業地は前年比44.1%上昇、商業地の上昇率で全国1位です。JR千歳駅周辺では今年6月にコンフォートホテル千歳とドリーミーイン千歳が相次いで開業し、駅東口では10階建てホテルの計画も動き出しました。郊外では道外資本による大型物流倉庫の建設も続いています。

「住まい」という宿題

～増える人と、届かない家～

一方で宿題もあります。人口は2026年6月1日で9万7,158人。前年比+83人ですが、市の推計は2年連続で約1,200人下回りました。地価と家賃の上昇で、若い世代が近隣市町へ移る例も出ています。市は今年6月、借上げ市営住宅の募集を始めました。

数字で見る 千歳のいま

44.1%	商業地の地価上昇率 千代田町／2026年公示地価・全国1位
97,158人	市の人口 2026年6月1日／前年比+83人
2nm	ラピダス千歳工場 2025年試作／2027年量産開始をめざす
全国TOP	支笏湖の水質 環境省調査の常連／日本最北の不凍湖

数字で見る千歳のいま

産業を呼び込むことと、住み続けられる住まいの用意は別の仕事。ここは建築士の出番です。

変わらない支笏湖ブルー

～まちの骨格は自然にある～

けれども骨格は変わりません。支笏湖は日本最北の不凍湖で、水質調査でも全国トップの常連。冬の「支笏湖水濤まつり」は湖水を吹き付けて氷像を育てる、時間に委ねる「工事」です。千歳川にはサケが遡上し、インディアン水車が秋の訪れを告げます。



駅前のホテル新築



支笏湖ブルーの湖面

空港と半導体の「動」、支笏湖と千歳川の「静」。「いい街並みができた」と言われるよう関わりたい。

札幌支部

楽しみから生まれる仲間の輪

副支部長
松本 純



札幌支部には930人の会員様が入会されていますが、委員会活動やセミナー、交流活動に参加されている方は一部の方に限られています。

これだけの会員がいるのに、会員同士のつながりが希薄なのはとても勿体ない事です。とはいえ、委員会活動に参加するのは抵抗があるし時間もなかなかとりにくい、セミナー等も興味に合うものが無い等の理由で、会の活動に参加をされていない方も多いと思います。建築士という同じ職能を持った

方々の集まる会のメリットの一つは、情報交換や仲間づくりが出来る事で、情報提供や仲間の輪が広がる事で、『何か』が生まれます。きっと生まれると思います、。

そのような発想から札幌支部では牛田副支部長の発声で、2年半ほど前から、ゆるく自分の好きな事を楽しむ『クラブ活動』が始まりました。

スタートはグルメの会だったかと思いますが、今ではボウリング部、ダーツ部、そば（打ち）部、登山・ハイキング部、映画鑑賞部、発酵食品つくるぞークラブ、カーリンコン部と増えており、これまで会の活動に参加されていなかった方々もどんどん参加をさせていただいております。

道内各支部では会員数の減少から会としての活動が難しい現状で、支部存続の問題にも直面しています。『活動しよう！』と考えると企画や参加者の確保、予算、日程調整などハードルが上がりますが、みんなで美味しい物食べよう！とか登山しよう！とか映画を見て語ろう！等趣味で交流する場をつくるのは、比較的始めやすいはずです。また、支部単体だけでなく他支部の活動に参加や合同開催や支部対抗戦とかも良いと思います。

その結果、会員数の減少抑制や新規入会者の確保、支部間同志の交流の場となる事も期待できます。

札幌支部のクラブ活動はどなたでも参加可能ですので、興味のある方は是非ご参加ください！



クラブ活動 様子

釧路支部

建築士会に入りませんか？

会員
小野 恵一



（一社）北海道建築士会各支部に所属する皆様、初めまして。釧路支部に所属し、現在市の建築指導課長を務めております小野恵一と申します。

私が北海道建築士会に入会したのは2023年、つい3年前の事です。建築士試験に合格し免許登録したのが2003年ですので、取得から20年が経過し、ようやく入会を果たしたことになります。

これには深い理由があつて……と言いたところですが、特に大きな理由はありません。行政に所属する身として「建築士会は少しハードルが高いな」と感じていたこと、そして取得時の担当が都市計画であったため、関連協会に所属してまちづくり活動を行っており、なぜか建築士会とは一線を引いていたというのが正直なところでした。今振り返れば両方に所属していてもよかったのですが(笑)。

建築士会に所属してからは、

様々な活動を皆様とともに行ってきました。これまでに私が関わった支部の主な取組みやイベント等をご紹介します。

・二級建築士受験者講習会の講師
令和7年度の講習会より所属部署の部下が担当講師を補佐する形で法規の講師を務めました。その甲斐あってか(?)、この年は1名の合格者を輩出することができました。今年度は事情により、途中から施工の講師も務めました。果たして合格者が出るか楽しみにしています。

・北海道建築士会全道大会(中標津大会)の参加

「釧路からも近いので、折角の機会ですから」と支部事務局の皆様からお声がけをいただき、参加いたしました。当初は予定していなかった「すごろく大意見交換会」への参加や、懇親会での他支部の方々との交流を通じて、大変有意義な時間を過ごすことができました。本年の札幌大会にも参加予定です。

・建築士会ビールパーティ

こちらは建築士会の恒例行事ですね。私は入会前から参加させて

いただいております。本稿の締め切り日でもある7月31日に今年も開催予定であり、もちろん参加させていただきます。

・旭川デザインウィーク見学ツアー

支部で毎年開催されている見学ツアーに初めて参加しました。カンディハウスのファクトリーツアーのほか、旭川デザインセンターにも立ち寄り、旭川家具の魅力を存分に堪能してきました。

今期からは支部の理事を仰せつかり、総務委員会やまちづくり委員会にも所属したことで、活動の幅がさらに広がりました。これからは皆様と愉しみながら、支部活動に尽力していきたいと考えております。

行政職で建築士を取得されている皆様、そしてこれから取得を予定されている若手の皆様。ぜひ若いうちから建築士会に入会し、様々な実務者の方々との交流を通じて見識を広めることをお勧めします。私のように「なんでもっと早く入らなかったんだ」と後悔してしまわないように……(笑)。

道士会の動き

本部の主な会議報告（8月）

◆デジタルコミュニケーション戦略PT

〈開催日〉1日(土)

1) 現状の課題と未来像

◆第2回事業委員会 (Web)

〈開催日〉8日(土)

1) 「既存住宅状況調査技術者講習」

2) 建築士がマンションの未来を変える大規模修繕「修繕の心得」講習会

3) 「設計図書整合性向上ガイドブック」「総合図書作成ガイドライン」講習会

4) 建築士受験者講習会 (WEB講習会) 開催

◆第3回役員会

〈開催日〉21日(金)

1) 令和8年第3回理事会議案

◆第3回選挙管理委員会 (書面開催)

〈開催日〉21日(金)

1) 代議員候補者の信任投票について

◆第4回理事会 (Web) ※すべて承認済み

〈開催日〉28日(金)

1) 令和8年一般会計事業計画及び収支予算 (6月末)

2) 令和8年特別会計事業計画及び収支予算 (6月末)

3) (一社)北海道建築士会 会員の届出書様式変更

4) 令和9年一般会計事業計画及び予算編成

5) 定款第6条に基づく会員の入会承認 (案)

本部の主な行事予定（9月）

13日(日) 二級建築士 (設計製図) 試験

18日(金) 建築士登録機関等連絡協議会意見交換会

講習会・セミナーのご案内（9月）

監理技術者講習

9日(水) 札幌市

編集後記

息子が吹奏楽局に入った影響で、クラシックをよく聴くようになりました。先日は道東の雄・遠軽高校吹奏楽局の定期演奏会へ。心臓に響くような演奏と、会場であるメトロプラザの素晴らしい音響にすっかり感化されてしまいました。建築も音楽も、人を感動させる空間や技の響き合いこそ醍醐味なのだと実感しております。今号も多様な視点からの記事が揃いました。皆様の設計や活動のヒントとなれば幸いです。

情報委員会 立花 智亜喜

CPD認定プログラム(8月認定)

◆第48回 (一社)北海道建築士会全道大会 基調講演、トークセッション

〈日程及び会場〉10月3日(土) 15:50~17:20
札幌市教育文化会館 (札幌市)

〈単位数〉2単位

◆第48回 (一社)北海道建築士会全道大会 ナレッジコンテンツ 青年委員会ワークショップ 他

〈日程及び会場〉10月3日(土) 10:30~12:30他
札幌市教育文化会館 (札幌市)

〈単位数〉各1~2単位

◆第48回 (一社)北海道建築士会全道大会 エキシビジョンブース 女性委員会 他

〈日程及び会場〉10月3日(土) 11:00~16:00
札幌市教育文化会館 (札幌市)

〈単位数〉各1単位

◆第48回 (一社)北海道建築士会全道大会 青年サミット

〈日程及び会場〉10月2日(金) 14:30~17:30
赤れんが庁舎 (札幌市)

〈単位数〉2単位

◆第48回 (一社)北海道建築士会全道大会 エクスカッション (A~Cコース)

〈日程及び会場〉10月4日(日) 9:30~13:00他
赤れんがテラス他 (札幌市)

〈単位数〉各1~2単位

◆令和8年度応急危険度判定士認定講習会 (現地集合講習)

〈日程及び会場〉11月17日(火) 13:30~15:30
北海道自治労会館 (札幌市)

〈単位数〉2単位

〈プログラム問合せ先〉

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

◆令和8年度被災建築物応急危険度判定 コーディネーター研修会

〈日程及び会場〉9月30日(水) 10:00~16:00
留萌振興局 (留萌市)

〈単位数〉5単位

〈プログラム問合せ先〉

北海道建設部住宅局建築指導課 TEL 011-231-4111(内29-481)

◆第14回まちづくりメイヤーズフォーラム

〈日程及び会場〉10月28日(水) 14:00~17:00
札幌ビューホテル大通公園 (札幌市)

〈単位数〉3単位

〈プログラム問合せ先〉

北海道建設部建設政策局建設政策課 TEL 011-206-8167

情報委員会委員長/前田 繁

副委員長/村山 賢司・立花智亜喜

委員/奈良岡 修・山川 力

津山 浩・板川 正人

北海道建築士 No.349号

発行 令和8年9月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル

電話 (011) 251-6076番

URL <https://www.h-ab.com/>